

第80回東海三県高校将棋大会 結果

東海三県大会は現在、夏と冬の年2回開催されており、2019年2月11日（月）の今大会で80回に達した。会場校として東海高校に長い間お世話になっており、顧問の佐藤先生、山田先生による入念な事前準備と、歴代の東海棋道部部員の皆さんのおかげでここまで継続することができた。

今大会には愛知・岐阜・三重の44校から団体戦に37チーム、個人戦に123名の申込があった。7月に比べて3年生の出場が少なく規模は小さくなったものの、冬の大会としては近年で最多の参加者数である。

【団体戦】

団体戦は3人制で、AからFまで各級原則6校による総当たりリーグ戦（今回のFは7校）を行い、成績により昇級・降級がある。持ち時間は30分の切れ負け。A級では5連覇中の愛工大名電が、最終戦を迎える段階で3人のうち1人が勝てば優勝となっていた。その5回戦でも鶯谷に3-0勝ちを収め、盤石の6連覇を達成した。旭丘はこの日は2人でチームを組むことになり苦しかったが、入替戦で勝って残留を果たしている（表を参照）。

第80回東海三県高校将棋大会団体戦A級

Aリーグ	1回戦	2回戦	3回戦	4回戦	5回戦	勝点	勝数	順位
1 愛工大名電	6 ③	5 ③	4 ②	3 ③	2 ③	5	14	1
2 鶯谷	3 ②	6 1	5 ③	4 ③	1 0	3	9	2
3 東海	2 1	4 ③	6 ②	1 0	5 ②	3	8	3
4 旭丘	5 ②	3 0	1 1	2 0	6 1	1	4	5
5 南山女子部	4 1	1 0	2 0	6 0	3 1	0	2	6
6 明和	1 0	2 ②	3 1	5 ③	4 ②	3	8	4

B級以下各リーグの上位校は次の通り。

B級①豊田西 ②瑞陵

C級①岡崎 ②四日市

D級①名古屋 ②春日井東

E級①知立東 ②津島東

F級①豊川 ②愛産大工業

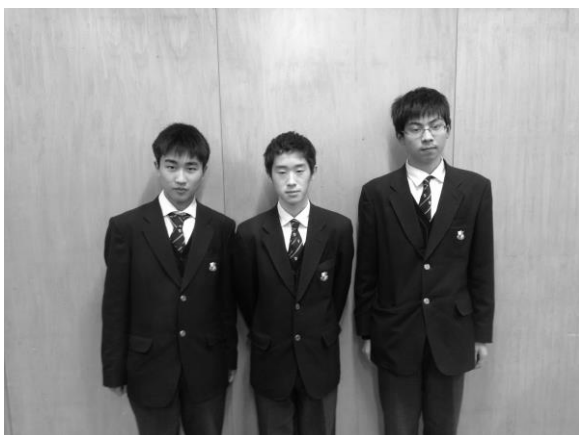
これらの学校にとって今回は入替戦の壁が厚く、瑞陵、名古屋、春日井東、愛産大工業の4校（ここ数年では最多）はひとつ上の級の下位校に敗れてしまった。名古屋と春日井東は3期連続昇級にあと一步及ばず。一方、豊田西は恐らく（手元の資料では2006年以降で）初のA級入り、岡崎と知立東は2期連続の昇級を果たしている。

【個人戦】

諸般の事情により、個人戦は今回が最後となる。

トーナメント方式で行なわれた。優勝には初戦から6～7連勝する必要がある。今大会では、9日前の全国高文連新人大会（岡山県）でベスト4に入った磯谷祐維さん（中部大春日丘1年）に注目が集まった。順調に勝ち進み、決勝は鈴鹿高校2年の伊藤雄太君との対戦に。伊藤君の後手四間飛車に対して磯谷さんが鳥刺しを選択し、伊藤君の4筋の歩の突き捨てを逆用した攻めがヒットして快勝、最初で最後となる女子選手の優勝で大会を締めくくった。

また、3位決定戦では千崎颯太君（小牧工業3年）が富田裕紀君（東海1年）に勝って、高校将棋最後の大会で3位入賞を飾った。



団体戦優勝の愛工大名電高校
（左から亀山君、瀬野君、兵藤君）



個人戦入賞者
（左から伊藤君、磯谷さん、千崎君）

次回からは、従来の「団体戦」と、そのメンバー以外の同一校3人で組む団体戦の「チーム対抗戦（仮称）」が実施される。チーム対抗戦はスイス式5対局で行われる見込みで、詳細は5月4日（高校将棋選手権県大会初日）に開かれる愛知県高校将棋連盟総会で説明する予定である。

第81回大会は7月に開催の見込みで、参加には事前申込が必要。新規参加の問合せは、6月中に南山高校女子部奥野まで（052-831-0704）。

（以上、日本将棋連盟東海普及連合会HPより抜粋）